名人俳諧句集

名人伯諧句集序

古人の句選し集録命名せる
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人のしわの祖なるの孝成教示
[illegible]かゝ[illegible]ん[illegible]を山[illegible]れ[illegible]
[illegible]我[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]と思ひ[illegible]

[illegible]
秋成北[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十一[illegible]月
[illegible]人[illegible]

名人俳諧句集巻之附録

拘るや此月然りうと明の哀　京　仙鶴

海鼠腸小松原をもくく海雲壺

今や春年の恵士の祐和の時半

此春の湯花の戸合てゆるやかに

踏川流るる迄ものを文七ゆ

鶴の之體近千粗　豪味等篇皆其佳

處の

貪しれハいのちんぬ樹の世て遠ゑ　知石

月紙遊て風と又乃宴さ弁　練石

田の人ハ生て庚ゑ風情ゑ　大圭

ひ水よ垂も秋の中ゑ弁

雲と後ゑ人ハそちゑ花の道　隆志

玉章　雪ちく秋の名ゑ

一枝やくゑ樹くも樹の色　竿秋

ゑ日面や家ゑ

極形容

稲の穂乃雪ちく形あ人樹樹式

山城ち山の志ゆや門乃変　雲扇

雲も花ゑ咲初ゑ

素稿ゑ志ハの花ハ風ゑ　丈石

雪の弁おそゑ

佳致

ゑ山ちゑ山ゑ山ゑ戒不調法

嵐山
しはらくやつゝみの人乃初さくら　羅人

うかうかと渡りし跡を寒さ哉

なにも人の声ある寒さ哉

宵の月や近江の待も聞ゆなる

瀰ヲ得テ雪ノ趣ヲ佳絶

吉野出て蝶の離ぬ桜かな　宋屋

趣似出於画図中而不妨其佳

浴衣きてみる恐し雲の峯

志らぬ同士夫婦と成て踊かな

嫁拂や亭螺の奥は水の音

人の振は我もかつらは踊かな　普求

天王寺の京留牀のよし
未来佛よみえて孔花の出開帳　八百彦

皆嫁はあつき紋柄は踊かな

ところ〳〵下りてくらし柳かな　公音

桃切
切菜し此八雪のみ寒の内かな　因石

誂し単の嫁は同して掃ふなり　春雄

我国へ帰まして来るうこの梅　風狀

今宵ナて春よ恋しや時雨

白梅やさまハそらゆ蠅蝿ひ　波光

八橋や宝井の庭の夏ごし　宗專

初午やら去年の家内梅さく

花咲や月ハて重へさハ国屋敷　武然

梅の香の

振向と咲や梅ハ呼れる此声

大義参のうくと休しさ蛍ゆ　春堂

文蛍宛　一日

かしまと梅ゝうゝ色紙ゝ　修古

夕月や女ゆ月ゆまて借金札　文鳴

文身ゝ書ゝ手の星ゝ　賈支

遊客

梅ゝの星て笑ゝて去ゝ田舎ゝ　紙隔

そこゝ不来て夜打まゝ梅乃花　儿圭

ゆゝ雪のゆゝく出ゝ蔵みゝ

非心非佛

さゝむしゝゝやすしゝさゝ寒

元月や咲ゝる雪ゝ和ゝけ　移竹

ひゝくしずハ枝の梅の蕾哉

真率自得

夕風や花もひゝくハ添ぶし

菜畑花を盗めば水と浴せけり

けぶ舟ゑ一歩ゝ酒やくゝの自

むつゝ記自の栖や　大三十日

ひつまゝ杯二ケの間イ　神叩自し我ホ乃家

亡友移竹　近日好テ作ル古調ニ一ヲ取テ法ヲ於元寓諸名家也　不ル屑ト俗ノ之談誉ヲ云

花咲や法ーの伊ま[illegible]　乙澄

雪ハ日や大名ひゝくり裏日山　稲起

青面乃とまれと塵や初秋の町　達三

ゝくゝくハひゝくり法の巨燈　漆掃

福寿草ゑの赤ゝ[illegible]ハ一ツ　我笑

ゝ一家木賃も留ゝ[illegible]　千虎

寒て休む日を暮ハ[illegible]　片路

ゝ[illegible]ハ下戸の命を問ゝ　九穂

風や秋らめ先のこのかたさ　寛留
燥掃や書紙れ来つ耳る秋　烏暁
帰るこの八島ヶ丘に寄る夜　申輔
五月雨や重ねみづしき紙た　土髪
罪れ月や雲ま雲ま雲の雲の雲　桃咲
裏面やめまてゆけ清の秋　稲太
肥ゝて自慢ハさもなくさ　長流
萩の花迫くこけて寄ル　孤舟

榔の葉ふる舟ゝ　奥乃庵
燥掃ハ夜の月ふる雲ル　一叉
得ちる思ひのみ乃榔ル　蝶車
交りの加減も鮒ま　提山
抱影と蹈出て暑ル　都夕
ルの樹ゝ同し榔のこの毛ル　可鉛
川毒ル心の毒ゝ　菅子
夕涼ゝ巨燈の恩ハ忘ゝ　珍志

恋しうの梅の香さよふる園　南浦
折折の星や梅ふるさら　可幸
ちんくと恋ハ星の雲の雫　凡流
山凍て雲や砕しもりの花　井々
宮幾の世とはあるを秋の橋　秋水
遠き恋ハ西の国を世ふるこそ　巴東
寄物の眠や　庚午諒陰　くうこ香　志流
清しもて　数の時　鶯の梅の　分川

[illegible]
鶴乃月ふるもせぬ稀うる　杜口
山風と　紀千の日切方　冬の梅方　幾　うる　鳥門
雲原ハ中よ清て菜祥ル　麗白
蝙蝠や雪ふる和と恋あるう　如碌
彼恋と八朝ふて　移乃風　杉古
牡の花嘉やむうしは義の流　蹄文
閑西　移乃と陸て　うんふ夕ル　雨遠
しもと　ちふも砧ル　百波

秋の月肌金ほとも合ぬ五葉の面　嵯峨　雅因

月清く笛の音の揺ち人も哀深し

白雲のやまてさやかに中と有て出

濃厚

嵐山の林下ゆとあやしよりれたる所と書て江戸

川音や心哀えの山さくら　祇峰

さうの猫あるかれぬ寒さ声　覚　鶴英

夕風よ泣ふく成ぬ雲叫峯

九月九日仕ると関ル

補遺

後世の菜吟ゝ之を長佛　京　九水

夕日の風ふかれて木侵菊　澤翁

かも川の魂祭りあつさうる　素白

やふ入やふるたまつさ二三日　百吾

雲かゝる山の名残やあ廉の影　文山

去ぬ子の生を惜ふ蓮の葉　閑々

思ひやる涙いるぬぬ　嵐竜

浮世の笑やすらん素冷　楚雀

一しを世の花乃ゑ繞ゆふ　無名氏

水ゑ芳園ゑ住日ゑ　（吉野思）　州山

風や雪ゑゑふ降し松乃音　玉指

風の神代とゆゑ夏乃夜　（みゑ春屋の日）　奇仙

きゑ音や五ゑ五ゑ五ゑ抜と竹の角　宗古

花ゑの役ゑ乃ゑゑてかう高帽子　（今）　松阿

鶯狸の森ゑゑ狸ゑゑ　（江戸）　春來

木の下小枝子ゑゑ花の糸

渾朴

彩自の中ゑ星ゑゑ女ゑゑ

年忘れゑゑ念ゑゑゑ

能中ノ之　隹境

鴨ゑぶや少ゑ松ゑ書の音

芝浦や車ゑ上ゑゑ霞　超波

さうさうの枯木伐まて山樵
我やねをとろかれて蛙一てい
蕣や世をほるまて花乃咲
波辺世名子 長十ラ 聯句一而発句ハ似不二所
すゝしさや蝉とひ和ハ佛あり 曲菴
湯桔やおのゝ生ゝ蔵るれま 存義
四布五布鮫の隠家のふるん哉
氣よ入乃頃爰ゝ生 義

とゝ釣秋と去て門掃く男哉
おうしゝ乃角や生桶の掃ゝゝ
子ゝ乃掃ゝ金魚丸鼻の先 湖十
野ハ人よ酷搾られて寒さ哉 買明
伊豚の味おうしる類と忘り
とゝ乃ゝよ枯野かくゝゝ縄蕃 平汐
おゝ揖ゝ永揖の尻や少者対面 栄仲
ひ乃ゝの乃ゝ乃者ゝしゝ乃哉 祇亟

雲雀ハ空の干くたるまでなり　祇長
春の日のそゝぐ仕とゝし　祇徳
花ちるゝ人ゆゝしき所の花の山

有色春情

名月や叡山の雲ハ八五百人　渭北
水よりもうつくしかりし初雪　超雪
宋の人と雪
はくらくの雪さ一日忘まうら　亀文
鶴さゝも家をうの城やゝ木立　吉原

太刀持ハ春よりうんてあくわ之

有二晋子カ之風一

茅屋やかゝんてゝ竹往　黒露
裏ゝ門の車ゝ牡丹ゝで　由林
刹はゝ桜の誉ゝ倍ゝ　正與
ゝゝ家ゝ蒲団裾ゝ生海鼠　清泉
現ゝて留ゝ代ゝ史雄ゝ　庭臺
お髪の舊地ゝ変ゝ巾　萬立

問潮浦すて
月と日とを交こそ
此人近撰温故集芝柞題集情有り未入レ穀者目巻千開以東疎十中
原而比スルヲ撰則不同日之論也

蓮谷

なにはの中の芦八板の橋小

梨節

橋とせりや蓮花の開きそ

逸志

語意倶麗

なにはの瓶に付て蓮の花小

紀逸

洛客盛古稀賀
此上八篇とも易しなれ百子者

有佐

野宿
淋しさや冬立しら神もお小業

田社

都の留守
冬の雨と振回てる子者小

乾什

猪曳の唄と投こむ師走小

栖鶴

る士乃倫ふ猪もしら雲小

百菴

七夕も星とかたらふ上を下を

太祇

学問や雲の義しさ古御殿

祈ちうほうの路居のくの祈うけて
閑を石ふく　蕪村

老成鍛練是素堂之風骨

真乃海波日はうらうらかな

平淡而逸

絡まるる家中もしやあるべ
ふしまて我松怜の弾却

祇村迫ロ倶居洛雖然り接入る江都ノ之
部ニ者以共調耳

蜂の巣を窓ふさぐ八月哉　樓川

山廻の美地も去の行秋哉　大坂　淡々

木林の梢のうすくとうやむ初冬

高秀

五月雨八ゆくさ伝て蓮ふろ
暁や屋敷の中ろうろうくを

秋ニ容ノ秋興ニ甚佳

屋松のひくう通ろ師走哉

ホくのそ才や条宮湯治之為
伎ふ奏ふ花ふ家ふ心性ふ

短夜や美女の寝ぬく眠馬　富天

罪作さ女ありて住用千

撫ハ月て茅屋て涼う暑さ哉　法象

抱ひ竜の世を変り火桶哉　樊川

語意倶美

幾中苗別

幾二つ足付ひとつ花の樗哉　富天

志ゑ乃ゑ海道一乃若の紅葉

くしの山世界の花ハのこ咲ぬ

蟬　永遠ハ顔よ余ら寒さ哉

住吉日枝の日傘哉

芝と忘れ中の居も蔭の冬

ゆ川らゆらゆて雲の柊哉

蕉門悪岐人之寝體也以外道而有音節自合者今所録皆可觀也附選者亦自庸中使々而是多

二三十年前作耳遊以其抑溢聲牙者如日增月則吾不知

わの水と共度頼へ　墓　紹廉

えりや非と改ら北のはしの

初抱ら吟ま て おら こ 有 牧　布門

七夕の髪ひ結ふ伊予ゟ　矩州

足破を断見ル

名月や人宅つゝく秋の雨

あさもこほしと長崎川ゟ　五始

土釜も沈むお宅の雨ゟ

夫婦別おゝ八七月八日ゟ　田鶴樹

おもゝや雑のつくゝ茅葺　舞雪

鳥帽子や山桜　鳥窓

碎て寒ゝと叫つゝく寒ゝ　晩鈴

度一度下ハ寒ゝ西瓜ゟ　婆来

日の初や乃ゝとて八月五日雨　社笛

生ゝ雑ゝ命成ゝ夕涼　茶雷

刈ゝくのゝ乳や孫後小孫　五楼

天ゝ下寒ゝハ三日乃胡瓜ゟ　来汲

大雪や雪を月ゝ雨ゟ　李雨

お細ゝ鰍一と雨や京雨五　几掌

乃ゝさのゑハら色ぬ蘭ゑ　周木
五分て雲介ゑし橋法　叙久
繪ら詩書収ゆく蛍ゑ　芦文
秋絶ゑ姉ぬゑらも時ゑる　呂雄
恭の妹乃大坂くゆゑ日わゑ　麥草
怜めゑや我て三代ゑ　以上大阪　魚洞
嘯る拙ハ人のゑ　伊勢　麦浪
夕島色芙乃自生も花の湖　杜陵

秋林しひゑら切ゆゑ琴ゑ系
喜も来ゑゑ藤ゑ取宮ゑゑ　温故
一粒も思ひハ朴ゑ　可以教誡ゑ　祠声
彩先も目ゑ怒の雲ゑ枯野ゑ　其口
嘯ゑの新彩ゑく枯華ゑ　麦茂
彩田ゑ人ゑ出来ゑ桃の茶　尾張　雲禮坊
喜ゑ中ゑ立りゑ榊ゑ

五十年振吟てくれる人

初雪やそれハ水も田子の浦　馬州

狩衣や月の夜文　同　寄蘭

色くの石ゆりあハ枯葉哉　上野　無名氏

風やはやハらつゝ荻の声　越中　其汀

こゝろ迄やとまれ迄ハ冬　加賀　素國

艸枯て牛も作ふく岡哉　同　麦水

畑中ゆひらう去ぬ柳哉　同　左菊

一里ゆ二里ゆ深山採哉　同　三四坊

是春景似稍深遂忘疲労之意

蓴菜ゆ水柱ゆ人ゆ氷室哉

流れやこの手柏ゆ四方採

塚ゆ引ゆと悔む　巴江

桑や子日ゆ似れた　同

ちらちら幅ゆ蓴ゆ　武州藤　文布老

散ゆ散ハ散ゆ秋の蝶　江西米津　雨麦

初雪や竹ゆ戻りし稲雀　同　芳菊

夕鳥啼くや海ゐ枯れ野　汀雨
初紅葉ふるハ東人声や神の留主　湖夕
水ゐ和帆のかひ〳〵溶て行　李夕
ちる花と共に乗て乱る雄鶏　東鵝
樹陰の低く〳〵や夜更　巴江
走る小河ゐ鳴ちそ維の影　文素
時雨や苦ゐ低ひ家一つ　可風
初雪や蓑ハ捨乃老育　佃坊

父の喪中ニ墓参して
力ゐや名ハ墓ゐ見て泣蓑代　飛良
灌仏の裸も近し更る石　童平
陸ゐ附叔ハ海そし夕ゐ　瓢水
流ゐるや我拾ハ嵐山
踏捨ゐ足ゐ乗ゐ名ゐ秋
紫陽花ゐ人ゐ知ゐや初茅舎　梅史

接龍の高の名ゐ元小春拾
二人ゐ歩く洛ゐ元巨燈ゐ皆住
死ゐ近の命ハ拾ゐ花ゐ郎　沙月

風や雲雀ひらひらと波しまに　同　田兼

霧ぐるや淀のワたらの雁鳴く　同　周鮑

日蔭や枝の雫の落る音　同豐　秋房

ふるさとに子と洗ひめや大こゝ　同　青魚

湖の矣八世ゝあるゝ芦引　同伊丹　岡成

物やらハ色も出てゝ夏の空　同兵庫　蘆洲

戸障るのかと問ふ見まさ引　淡路　乙貫

着物の汗を八重波の袋引　参河　只川

浦乃妻多ゝ恋と明ふらう　武蔵　凉岱

独寝の袋て袁て泪般ふる

寓意新

鶏ゝの森心那くゝ袁ゝ引

吟袁て一袁ゝ袁ゝ引　久定　里丸

初雪や鶏ゝ袁ゝ袁ゝ　上野　梅布

忙ゝまて行やうゝ花見人引　出雲　杏村

打袁ハ袁ゝて同り灯袁引　結城　雁宕

[illegible]ふる仏壇[illegible]てし[illegible]

[illegible]ほとの[illegible]

[illegible]と代り[illegible]抑[illegible]ん[illegible]

佐加井 阿誰

戸棚[illegible]も孤[illegible]枯て[illegible]

讃高松 山槐

足[illegible]日先[illegible]花とハ知[illegible]

同丸亀 阿中

[illegible]

同金毘羅 冬扇

[illegible]

同津田 文江

[illegible]

同新田 冊尼

[illegible]の[illegible]て初[illegible]

肥後 里英

[illegible]水雞

同 楚山

大[illegible]

備前 能移

[illegible]

同姫路 十磨

十[illegible]

常陸 一鵜

[illegible]

陸奥 練否

[illegible]

伊豫 雨律

[illegible]

紀熊野 良道

ふと吟じ出て行くうの竹の秋ん　長崎　槐枝

一日ハ花と背中よる汐干ヲ　但馬　嘯子

どうん色でぞ伐刀ハ椹のうしろ山　二名氏

嘯一つ越ぬ田螺の一朝ヲ　参河　無人

蓋業ふ春て経夜ハ長金之　湖水江　千梅

ゆるはふ乱ていよろ世階　長崎　露秀

ひう春くも着節ふまうよふうん　京　如洋

追加

裏雨や巨燈孔ハ遠ヒ　来山

書の夢夕氣孔書ふが恨めふ

短夜を二階ふ子上ヒうう

数ふ中ふ書ふ中ふ書ふ中ふ書ふ　伝藤

切ふ日ふ雨ぎふ雨ふ色

中くふ燈ふ　近ヲ復得堪ハ之ヲ　皆崑岡中ノ之物　数十篇ヲ一摘ハ之ヲ要ス是

清水清水に庵を結ぶ　大坂　泉石

飯酒肴　酒肴の飯の

翁を面白き事迄はなつさ

白の表四面の蔵乃自

三人の枕二つ　秋桂著

暁の夢　暁の夢の夢一重

夢〳〵もて又かしの孤子哉

萬年先生博物之餘咲千臨池人多知之而俳句亦如此可謂奇矣

俳諧論

初祖天二変化三祖三変化

三祖三四変化の祖三変化

変也志賀変也化也志幻化也

変也白変化自由

云也於老子云撰万民哉

宅氏風流博雅生俗於

如四時變化也豈有忘乎哉
撰大今名世業子業句孤
業義法業以和一日傳世樓
以撰一子業之孤圓之所樓
業義如鬼之人為之吉怪林
昔諫於乎地六之忘乎哉
撰業歷史之嗜業之嗜

撰性也古撰亦性也乃性傷妙
界之尺何者於此一系見六
風流之孤科亦寶屬壬子之
冬小門子撰

朝陽保定

敦海白如世之寶

皇漢洋今古書籍新古翻譯書
類自家積年發兌セル者ト其集藏
帝ニ充棟載車ノ夥キノミナラズ品
位精上價程清廉以テ四方君子
愛顧ヲ待ツ

心齋橋筋南久寶寺町四丁目
大阪書籍老舗　前川善兵衛

文政六年十三篇

Co 60